

令和3年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立須恵高等学校

自己評価				
学校運営計画(4月)				評価(総合)
学校運営方針	敬愛の精神と国際的視野を備え、何事にも高き理想をもって挑戦し、地域やグローバル社会で活躍する人材の育成を目指して、高い志と確かな学力・体力・豊かな心を育む。 「Change the future Sue」 ○「校訓」・「五省」・「五心」を教育活動の根幹に据える。 ○主体性・自律性の涵養を重視して、生徒の主体的な活動を促し、適切なサポートに努める。 ○新しい時代に対応した教育活動を、進取の気風の下に創造する。			
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
・生徒に寄り添う姿勢や安全で安心な学校づくりの感覚が浸透しつつある。 ・授業改善を掲げ、評価の在り方を軌道に乗せることで、生徒の学びの変化につなげる。 ・自己肯定感、自己有用感をさらに高めることで、生徒に自信をつけさせていく。 ・隣接する三つの町との連携協定をさらに拡充し、都市圏における地域との協働のあり方を探求する。	(1)安全で安心して通える学校環境づくり	・人権尊重を基盤に据えた教育活動の推進と道徳心の涵養 ・学校安全・学校衛生に係る取組の徹底		
	(2)自律的な学修者の育成を念頭においた授業の展開	・学力の三要素のバランスある育成をめざす授業改善とそのための観点別評価の推進 ・「総合的な探究の時間」を中心にした生きた学びの創造		
	(3)自尊感情や自己肯定感を高める生徒指導の推進	・生徒の主体的取組を促進し、自律性の伸長に資する学校行事・生徒会活動・部活動の運営 ・自分が大切にされていると生徒が感じるエンカレッジな生徒支援の推進		
	(4)一人一人の生徒のキャリア形成と自己実現に資する進路指導の構築	・在り方生き方を考え、主体的に自己の進路を選択する力を育むキャリア教育の強化 ・生徒の希望と適性を生かす進路実現に向けた		
	(5)認知的能力と非認知的能力のバランスある育成の重視	・学習の基盤となる基礎的読解力の養成 ・校内・校外での体験的活動を重視した教育内		
	(6)Society5.0時代に対応した持続可能な社会における教育の展開	・cloud by default(クラウド利用)におけるハイブリッド教育の推進 ・ICT文具を活用した個別最適化教育の構築		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教育推進	授業改善の更なる推進	知識・技能の習得はもちろんのこと、思考力・判断力を育成する授業改善にむけた取組を更に推進する。 思考力・活用テストを授業改善に活かすとともに、生徒の学びの変容を促す。 観点別評価及び思考力・活用テストにより教師、生徒双方向からの授業改善を進める。		
	遅刻者・欠席者の削減	授業における存在価値を見出せるよう主体的な学習姿勢を高めさせることにより、出席率の向上を図る。 自律的・計画的な行動・学習を促し、遅刻者の削減を目指す。		
	新学習指導要領実施に向けた準備の推進	新教育課程の編成に基づき、次年度の教材作成等を推進する。 各教科・科目において、新学習指導要領の理解を深める。		
	学校の教育活動全体において生徒の基礎学力向上を図る	単元テストを通して生徒の知識の習得を目指し、理解を深めることにより、基礎学力の向上を図る。 「基礎学力診断テスト」の結果を学年、教科で分析し、日々の授業、指導を改善する。		
新たな学び	ICTを活用した授業改善の推進	ICT機器を教具にとどめず、文具として利活用する授業を展開する。		
	ICTを活用した学習評価	教師が学習成果をICT端末やクラウドで記録・保存し、学習評価に活用する。		
	ICTを活用した協働学習	社会人や学生、近隣の中学校など校外の他者との協働的な学びを取り入れる。		
広報	キャッチフレーズ「あなたの夢によりそいます」を掲げた広報活動の展開による1.4倍以上の志願倍率の確保	オープンスクールを3回(8・10・11月)と部活動見学ウィーク(10月)を実施する。 学校紹介動画をはじめとする広報資料を充実させる。 組織的・計画的に中学校訪問を実施する。		
	普通科進学校としての「進取」に則った特色のアピール	Classiを活用してHP掲載までの流れを整備し、積極的な情報発信を行う。 第4学区進路相談事業(8月)の円滑な開催に向けて取り組む。		
企画庶務	式典等の企画・運営を効率化	式典における業務内容を改善し、効率化を図る。		
	PTA活動の効率化	生徒支援のために、PTA役員・委員会が活性化できるような組織としての活動内容を創意工夫する。		
	職場環境の整備・改善	職場環境を整えるために全ての業務を全職員で分担できるよう企画する。		

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

生徒支援	安全で安心な学校環境づくりといじめの撲滅	月1回のアンケートの実施、面談などを通していじめの未然防止に取り組む。 安全教育の工夫と充実を図り、登下校指導を効果的に実施する。 交通安全指導、非行防止教室等の実施を工夫する。					
	生徒会活動・部活動の活性化	部活動紹介、体験入部等を充実させ、部活動加入率80%以上を目指す。 生徒会を中心に、生徒会行事の工夫改善を図り、生徒の主体的な活動を支援する。 生徒会、部長会を定期的に開催する。					
	ボランティア活動への積極的参加	生徒会を中心に学校全体をあげてボランティア活動への参加を呼び掛け、多くの生徒の積極的参加を目指す。 全校生徒が何らかのボランティア活動に参加するような取組を実施する。					
	生徒の自律的態度の育成	校則の検討等、生徒の自律的態度の育成に向けた支援を行う。 生徒会を中心としたスマートフォン等の校内における適切な利用法の確立等、生徒の規範意識を高める支援を行う。					
	人権尊重に視点を置いた教育活動の創出と道徳教育の推進	人権教育の推進に係る職員研修及び、人権教育HRの充実を図り、学校全体の人権意識を向上させる。 生徒の人権意識の涵養を図る取組を充実させる。					
保健環境	生徒の情報の共有と組織的な連携の強化、及び生徒・保護者によりそう支援体制の確立	新入生の情報交換のための中学校訪問を実施する。(入学前3月) 個人面談週間を実施し、生徒の状況把握を行う。(4月) 生徒情報連絡会を実施する。(5月・9月) 特別支援の視点に立った学校環境の整備充実を図る。 行事前の健康相談、性と心の健康相談等、適宜スクールカウンセリングを実施する。					
	美化委員会・保健委員会の活性化	保健委員会による健康・安全意識の向上のための取組を企画、実施する。 美化意識の向上のための取組を企画、実施する。					
	全行的な環境美化意識の啓発	清掃区域の用具の整理および用具の充実を図る。 自主的・自発的な校内美化の在り方を検討する。 古紙回収やペットボトルキャップの回収の推進等、リサイクルを推進する。 清掃ボランティア活動の活性化を図る。					
	生徒、保護者によりそう支援体制の確立	特別支援の視点に立った学校環境の整備、充実を図る。					
地域連携	須恵高校型の地域探究カリキュラム調整、地域のソーシャル・キャピタルの強化に向けた制度整備	連携協定3町を中心に地域と連携した探究活動・地域貢献活動を推進する。 企業探究を中心とした地域課題の解決に取り組むことで、地域の将来を担う人材の育成につなげる。 高大連携により、上級学校等に進学後も継続して探究的な学びを継続できる環境づくりを行う。 コミュニティーレンジャー、学習レンジャーの制度を整備し、生徒が地域貢献活動に参加しやすい環境を整える。 「小学生との交流会」の運営方法について、情報機器を活用した業務の効率化を図る。					
	進路実現に向けた組織的な進路指導の構築	生徒の進路実現に向け、各学年と連携を図り、実状に応じた進路行事(説明会・講演会等)を実施する。 五省ゼミの時間を活用し、面接や小論文指導、放課後課外(3年)を効果的に実施する。 論理コミュニケーションを円滑に実施し、生徒の言語活動の育成・充実を図る。 資格・検定試験についての情報の収集、生徒への伝達に努める。					
進路支援	在り方生き方を探求するキャリア教育による社会人・職業人としての自立の促進	キャリアガイダンス等を円滑に運営し、生徒の職業観の育成、進路選択に対する意識の向上を図る。 五省ゼミプラスの時間を活用し、上級学校の講義や説明会を実施し、個別最適化された進路支援を実施する。 「Classi」を活用したポートフォリオ、キャリアパスポートの作成を行い、主体的に進路決定する力を育む。					
	進路情報の提供・活用・発信の充実	模試試験結果データの共有や進路結果分析を行い、充実した進路支援につなげる。 進路のしおりの内容を精選し、ホームルーム活動等で効果的に活用する。 校内の掲示板や進路情報スペースを積極的に活用し、生徒への進路情報提供を充実させる。 ホームページを通して、進路ニュースの発行や、本校の進路に関する情報を、保護者や地域に向け発信する。					
情報化推進	ICT機器活用促進のため環境を整備する。	ICT文具の校内整備状況を職員に共有し、適切に活用できる環境を整えることで、ICT文具の活用促進をサポートする。 「Classi」、「Microsoft365」、「GoogleClassroom」等の環境を整え、授業での幅広い選択肢を提供する。 統合型支援システムの円滑な活用を推進する。					
	スマートフォンやタブレットを活用した学習支援	学習記録やe-ポートフォリオの活用を推進し、生徒が自己の進路選択を適切に行える環境作りに努める。 職員や生徒の要望に応じてICT文具等の使い方のマニュアルを作成し、学習支援に必要な環境作りを支援する。					
読書推進	図書館利用の活性化を促す	職員・生徒の個人情報の取扱いについての理解を深め、個人情報の保護を徹底する。 図書委員による読書推進のための取り組みを充実させる。 効果的な選書と廃書を行い、蔵書の整理に努める。 利用しやすい環境整備に努め、図書館利用マナーの向上を図る。 広報活動を充実させ情報提供に努める。					
	研修	生徒の学校満足度を高めるための新しい時代に対応した教育活動の在り方の探究と、他の校務分掌との連携による生徒の実態に沿った斬新な取組の創出 校内での多様なアンケート等による教育活動の改善	授業改善に向けて、各校務分掌・各教科・各課との連携強化と、職員研修の内容改善等、教育活動の支援の充実を図る。 相互授業参観について、授業改善に向けた新たな取組を提案し、実践の支援を行う。 「Classi」、「Googleclassroom」等を活用し、本校の全教育活動を生徒の主体性活動へ向かわせる支援を行う。 本校の教育活動における成果の“見える化”を図り、成果のさらなる充実に向けた提言を行う。 学校満足度調査・授業改善アンケートを授業改善等に活用できるデータ分析の“見える化”等、支援の工夫・改善を行う。				

第一学年	志を高くもち、自ら学習に臨む生徒の育成	学習習慣を定着させ、基礎学力を確実に習得させる。 模試分析を教科指導に活かし、学力を向上させる。 五省ゼミを活用し、自ら学びに向かう姿勢を育成する。				
	視野を広くもち、どう行動すべきか熟考し実行できる生徒の育成	学校行事等、諸活動を通して多くの成功・失敗経験を積ませ、どう行動すべきか客観的に判断し、実行できる力を養う。 面談やカウンセリング、講演会等を活用し、集団生活を円滑に進める術を身につけさせる。 授業やHR活動等日常生活で常に人権に配慮した指導を行い、生徒の人権意識向上に結びつける。				
	他者と協働し、課題を解決する力を高める	部活動やボランティア活動に積極的に参加し、他者と協働して課題解決や目標達成することで自己肯定感を高める。 様々な場面で生徒主体の活動を企画し、リーダーとしての意識を向上させるとともに、「協働」の大切さに気づかせる。				
	基本的な生活習慣の確立	自立に向け生活習慣を自らコントロールし、身の回りのことは自分でできるよう生活力を高める。 礼儀や立ち居振る舞いを常に意識させ、周囲に必要とされる人材を育成する。 時間を意識し、早めの行動を促す。				
	生徒一人一人の自尊感情・自己肯定感を高める	学習、行事等様々な場面で鍛え、努力を認める(褒める)ことで、自尊感情・自己肯定感の向上に結びつける。				
第二学年	教員間・分掌・事務室との連携強化	早めの「報告」「連絡」「相談」を徹底し、連携を図ることで円滑かつ効果的な教育活動を実現する。				
	須恵高校「五省」の実践による心豊かでたくましい生徒の育成	五省の具現化を目指し、思いやりのある行動ができるようになる。 規範意識を確立させるとともに、自ら考え生徒主体の活動を通して、自立する力を身に付けさせる。 清掃活動を充実させ、環境整備と美化意識の向上を図る。				
	生徒の学習意欲を高め、確かな学力の定着を図る	ITリテラシーを身に付けるとともに、ICT文具を積極的に活用し、学びの活性化を図る。 課題や単元テストの調整を行い、生徒が計画的かつ意欲的に学びに向かえるようにする。 個々の目標に対し、その到達度を評価し、適切なアドバイスにより次のステップへの行動を促す。				
	自ら進路を模索し、高い志をもって進路を明確にできる生徒の育成	AIを活用した進路先や職業をマッチングさせ、進路目標を明確に定めることができるよう支援する。 学習支援サービスを活用した、学習の記録やポートフォリオの記録、模試等の事前・事後学習の徹底を図る。 個人面談や個別指導を積極的に取り入れ、生徒の自己実現に向け、教師間の情報共有と連携を強化する。				
	多様性を認め、個性を生かしながら協働できる生徒集団を育成する	学年生徒会や38期生徒会を中心に、学校行事(岳城祭・セミナー・最指導員・体育祭・修学旅行等)を生徒主体の運営を進め、協働できる集団を育てる。 総合的な探求の時間を通して、地域の魅力や課題を見つめ、自己との関わりや解決など考える力育ませる。 自他の美点を見ることがや前向きな思考・発言ができるような声かけをして、明るく思いやりのある生徒を育てる。				
第三学年	教員・分掌・事務室との協力体制と生徒・保護者との連携強化	学年団、各分掌、事務室との連携体制を強化する。 保護者との連携を密にし、安心・安全な学校生活を目指す。 配慮が必要な生徒への対応は、SC・SSW等関係機関との連携を図る。				
	高校卒業後の進路実現に向かって、自ら進んで学びに向かい、自走できる生徒ならびに集団の育成【自ら進んで学びます】	進路実現に向けて授業改善を継続して行い、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図る。【教務・学び】 主体的・対話的で深い学びを通して、希望進路実現を図る。【進路】 総合的な探究の時間を通して、進路意識を高め、進路実現への道筋を明確にさせる。【地域・進路・読書】				
	確かな規範意識に基づき、自らを客観的に捉え、集団や社会の中で自己のなすべきことを正しく認識し、行動できる人材の育成【行動に責任を持ちます】	岳城祭、体育祭など生徒主体の行事運営を通して、集団における達成感の共有と自己肯定感の高揚を図る。【生徒】 19歳成人に向けて確かな規範意識のもと現状認識力と課題解決力の育成を図る。【生徒】 本校創立40周年に向けて帰属意識を高め、学校が1つにまとまる場面を創出する。【企画・広報・生徒】				
	仲間を大切に、学校行事や部活動に主体的に取り組む集団の育成【友達と助け合います】	仲間の個性を認め合い、確かな人権意識を育成する。【生徒】 進路実現に向けて個々に応じた支援体制の充実を図る。【教務・進路】				
	地域に愛され、必要とされる人材の育成【先にあいさつをします】	岳城祭で地域探究のまとめを発表、展示を通して実施する。【地域・広報】 積極的に生徒から出身中学校に情報を発信する。【広報】 進路決定者中心に地域ボランティアを関係機関と連携しながら実施する。【地域・広報】				
生徒、保護者、教員の学校満足度の向上と安全で安心な学校生活を通じた心身ともに健康な集団作り【強い身体をつくります】	教員における長期・短期における授業評価から授業の満足度ならびに成績向上を図る。【教務・研修】 教育上配慮が必要な生徒・家庭への積極的、個別的支援と保健室・SCと密接に連携する。【保健・生徒】					
教員間・分掌・事務室との連携強化	担任会後に副担任会を実施する。 経済的・社会的配慮が必要な家庭を把握し、支援する体制の確立を図る。【事務室・保健】 成績、出欠、調査書の作成など校務支援ネットワークの円滑な運用を図る。【情報・教務・進路】					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
---

評価項目以外のものに関する意見

--